

あいさつ

沼田 眞

環境教育の公式のはじまりは、1972年ストックホルムでの国連「人間環境会議」の中であった。その後環境教育の世話役はユネスコが担い、後にユネップ（国連環境計画）が加わり、この両者によってCONNECTというニュースレターが出されるようになり今日に至っている。そのタイトルの一例をあげると、「ストックホルムとトビリシの2回の国連会議以降の国際的な環境教育」(Vol. 7, No 1, 1982)がある。私も出席したストックホルムの会議にもふれているので懐かしい。私はその後もCONNECTをずっととり続けて、環境教育の世界的動向を見つづけている。

ところで、われわれの「日本環境教育学会」は1989年に学会準備会の名のもとに「設立趣意書」を作成し、呼びかけ人や賛同団体を募り、呼びかけ先リストを徐々に整備し参加を呼びかけるなどの努力の結果、1990年に設立を迎えた。その後、大きく発展し、今日に至ったことは、皆さんご承知のとおりである。

設立後の90年代といえば、千葉県立中央博物館の館長をちょうど10年務めた時期とも重なり、環境教育学会と比較しながら相互の発展をはかってきた点で、この10年は個人的にはとても興味深い時期であった。また「博物館における環境教育」という自然誌シンポジウムを多くの賛同者を得て行った。その他、各県の「レッドデータブック」の調査・作成にも、「世界遺産の指定」などにも本学会員の活躍がめだった。

最後に、環境教育学会10周年記念事業として行われた、昨年シンポジウム「環境教育の現代的展開とその展望」については、社団法人「日本環境教育フォーラム」の協力をいただいて、東京農大100周年記念講堂で行われた。関係者のご協力に感謝するとともに、本学会の今後のいっそうの発展を願っている。